



October 2022 号外

全国学力学習状況調査の結果について(国語編)

4月に6年生に実施した「全国学力学習状況調査」について、牛牧小学校では「どんな観点到十分に力がついていて、またどんな観点到弱さがあるのか」を考察しました。

国語において

- 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉える
 - 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる
 - 登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉える
 - ◎文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整える
 - 漢字や仮名の大きさや配列に注意して書く
 - ▲登場人物の相互関係について描写を基に捉える
 - ▲表現の効果を考える
 - ▲文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける
 - ▲漢字を文の中で正しく使う
- <◎は県・全国の平均回答率よりも5ポイント近く高かった項目>

牛牧小学校の児童の国語の力は、県の平均をわずかではありますが上回るものでした。基礎的・基本的な事柄の定着という点では概ねできていると思われます。理科をはじめとした教科の学習の中で、「根拠を明らかにして自分の考えを書く」ことに繰り返し取り組んできたため、「文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整える」という点が県平均・全国平均より大きくアップしています。その一方で、「表現の効果を考える」という点に弱さがあります。また、「自分の文章のよいところを見付ける」記述問題での「無回答」が多いのも気になります。これは、自分の考えや思いを文章で書ける児童も多い中で「何をどう書いてよいのかが分からない」と全く書くことができない児童がいるということになります。牛牧小の児童は記述式の問題に対してポイントが高いという強みがあるのですから、どんな課題に対しても学習した漢字を使って少し長い文を書く習慣を付けることで、こうした「無回答」は減らせるはずです。一度読んだだけでは「少し分かりづらいなあ」と感じて簡単にあきらめてしまうのではなく、繰り返し読んで途中でまでも自分の考えを書けるような活動を意図的に仕組んでいきます。